企画記事

2017年（平成29年）10月22日執行
第48回衆議院選挙について

研究員　**井原　慶一**

1．はじめに

10月22日に投開票された第48回衆議院選挙は、野党第一党の分裂を引き起こし、終わってみれば与党自民党の大勝で幕を閉じた。

この選挙、結果だけみれば、『与党の現状維持』と『野党の細分化』であり、衆議院の勢力図は解散前と大きな変化はなかった。しかし、この選挙について、戦後政治の大きな分岐点と位置付けられる可能性が指摘[1]されていることに留意する必要がある。

ところで、与党の大勝の陰に見落としてはならないことがある。それは政権与党が、有権者の絶対的支持を受けていないことだ。自民党は289の小選挙区の277に公認候補を擁立し、連立を組む公明党の９選挙区、「勝てば追加公認」を前提に無所属候補を競わせた３選挙区を除いて、全選挙区に擁立した。結果は、追加公認をした３議席を含め、218議席を獲得した。議席占有率は75.4％である。しかし、この「勝利」は、絶対的得票率（棄権した人も含めた全有権者からどれだけの支持を受けたかを示す数値）では25.2％でしかない。比例代表では自民、公明両党が獲得した計87議席は定数176の半数に届いておらず、「得票率に比べて議席占有率が高くなる小選挙区制の恩恵が大きかったことを裏付け」（10月25日毎日新聞）るものであった。

このように二大政党制、政権選択選挙という選挙を実現するための選挙制度改革＝『小選挙区制』という二十数年来の実験の結果は、国民の期待に反し、民意の反映しにくいものとなって、最近の各種選挙における低投票率に示されるように、国民の間に政党政治への失望や諦めが生じているのではないか。

こうした疑問のもと、千葉県地方自治研究センターでは、千葉県内の選挙結果の総括と分析を試みることにした。

2．衆議院選をめぐる主な出来事

今回の選挙をめぐっては、党首の「節目をつくった言葉」があった（「衆院選　潮目を変えた言葉」10月30日朝日新聞朝刊第4面）。以下、約１か月間の選挙戦の動きを党首の「節目をつくった言葉」で追ってみた。

⑴『国難突破解散』

９月25日、安倍晋三首相が記者会見で衆院を解散することを正式に表明した。安倍首相は「少子高齢化、緊迫する北朝鮮情勢、まさに国難とも呼ぶべき事態に強いリーダーシップを発揮する。自らが先頭に立って国難に立ち向かっていく、苦しい選挙戦になろうとも、この国難を乗り越えるために、どうしても今、国民の声を聞かなければな

1　毎日新聞論説委員長古賀攻氏は「それでも後から振り返った時、2017年衆院選は戦後政治の大きな分岐点と位置付けられる可能性がある。安倍晋三首相にとって今回の選挙は、政権担当期間を大幅に延ばすための手段であり、追加の期間は憲法など『国のかたち』の変更に直結するためだ。」と指摘する（11月7日署名記事「衆院選と第4次安倍内閣」）。

らない」として、首相自ら『国難突破解散』と名付けた。

⑵『リセットします』

同日、安倍首相の会見に先立ち、小池百合子東京都知事は側近議員らが準備していた新党の動きを『リセット』すると宣言し、自らの主導で「希望の党」の立ち上げを表明したことから、小池氏本人の衆院選立候補も取りざたされ、政権与党内の楽観ムードは払しょくされた。

⑶『名を捨て実を』

９月28日、衆院解散の日。民進党両院議員総会で、前原誠司代表は「名を捨て実を取る。誰かを排除するということではない。もう一度政権交代、安倍政権の退場、理想の社会の実現。それをみなさん方とやりたい」と希望の党への合流を提案した。提案は了承され、森友・加計学園問題等で支持率が低下していた安倍政権への批判と都知事選で圧勝した小池新党に対する期待感から流れは野党側に傾きかけたように見えた。

⑷『排除いたします』

９月29日、小池百合子氏が希望の党の公認をめぐり、「排除いたします」と民進党出身者をふるいにかけると意思表明。選別の基準は、安全保障や憲法観の一致。公認を得るための「政策協定書」に署名を迫るやり方が「踏み絵」であると反発が噴出し、希望の党は失速する。

⑸『草の根の声に』

枝野幸男氏が、10月３日に結党した立憲民主党が「排除」された民進党出身者の受け皿になった。「右とか左とかでない。草の根の暮らしの声に支えられた下からの民主主義を、経済再生をしていかなければならない」（10月14日に新宿駅前で周囲の陸橋、階段を埋め尽くした聴衆を前に行った演説から）と訴え、結党間もない新党が政権批判票を集めていった。

３．投票率

10月23日、総務省は第48回総選挙の投票率を発表したが、小選挙区選は戦後最低であった前回2014年の52.66％をわずかに上回る53.68％と戦後２番目の低さであった。都道府県別投票率では、山形県が64.07％と最も高く、全国平均を10.39％上回った。

千葉県の当日有権者数は5,225,120人（男2,598,182人、女2,625,938人）で、投票者数が、2,607,028人（男1,306,396人、女1,309,632人）であった。投票率は49.89％（男50.28％、女49.51％）％となり、前回比△1.35％（男△1.71％、女△0.99％）と千葉県の投票率は下がった。県内で最も投票率が高かったのは鋸南町の59.54％、市部では千葉市美浜区55.50％、我孫子市55.47％であった。最低は八街市の44.55％である。

４．選挙結果

⑴　比例代表

自民党は比例代表で66議席を獲得した。比例定数が2014年の前回衆院選から４減されたこともあって、２議席を減らしている。しかし、得票率は前回（33.1％）と同水準の33.3％で、堅調な戦いぶりであった。得票率は全ブロックで首位。安倍首相が党総裁に就任した後、３回の選挙で自民党が得票率を下げたことはないという。

公明党は前回の26議席から21議席に後退した。得票率も前回の13.7％から12.5％と下がった。

野党第１党となった立憲民主党は37議席で、得票率は19.9％であった。北海道では自民党に2.4％に迫る26.4％で同党と並んで３議席を獲得した。東海では５議席を確保できる得票数であったが比例代表名簿登録者数が足りず、１議席が自民党に移った。

希望の党の得票率は17.4％と立憲民主党を下回った。東北、東海、四国では20％を超えたが小池百合子代表が都知事を務める東京で17.4％と伸

びず、第３党にとどまった。獲得した議席数は18。旧民主党の前回選挙での35議席に対し、立憲・希望両党の獲得議席は69となり、一定の新党効果があったのではないかと思われる。

希望と選挙協力した日本維新の会の得票率は6.1％であったが、近畿では18.3％と健闘し、５議席を得た。しかし、3.3％と振るわなかった東京はじめ、７ブロックで議席ゼロに終わった。

共産党は得票率が前回の11.4％から7.9％と大きく落ち込んだ。前回は政権批判票の受け皿になったが、今回は立憲などと競合し、苦戦を強いられた。

各党の議席占有率は自民党38％、立憲21％、希望18％、公明12％など、ほぼ得票率通りの結果となった。

⑵　小選挙区

289の小選挙区で自民党は、218議席を獲得した。同党の得票率は48.2％、議席占有率は75.4％だった。以下、千葉県内の13選挙区について分析をする。

前回の総選挙で、自民党は11選挙区で勝利し、民主党は１区及び４区で２議席を獲得した。今回の選挙では、無所属で当選した４区を除く、12選挙区で自民党が勝利した。

①１区（千葉市中央区、稲毛区、美浜区）

千葉県第１区の選挙結果

	氏　名	得票数	政党	新旧	当選回数
(当)	門山　宏哲 (53)	82,838	自民	前	３回
(比)	田嶋　　要 (56)	81,481	希望	前	６回
	大野　　隆 (48)	24,231	共産	新	０回
	長谷川　豊 (42)	15,014	維新	新	０回

注：欄外の（当）は小選挙区選出議員、（比）は比例代表選出議員
氏名欄の（　）内は年齢

前回、前々回と民主党候補が制した選挙区で、自民・希望・共産・維新の４党が激突し、県内一の激戦となった。民主で当選し、民進から希望へ移った田嶋要氏を門山宏哲氏（３期）が初めて、小選挙区で破った。門山氏の得票率は、40.69％であった。田嶋氏は比例代表で復活当選（６期）した。田嶋氏の得票率は40.03％。

比例区の得票率は自民34.10％、立憲民主24.08％、希望17.73％、公明10.21％、共産7.51％、維新4.96％、社民1.17％、幸福実現0.33％

②２区（千葉市花見川区、習志野市、八千代市）

千葉県第２区の選挙結果

	氏　名	得票数	政党	新旧	当選回数
(当)	小林　鷹之 (42)	108,964	自民	前	３回
	樋口　博康 (58)	54,035	立憲	新	０回
	竹ケ原裕美子 (46)	28,878	希望	新	０回
	上野　洋嗣 (40)	16,491	共産	新	０回
	藤巻　健太 (34)	14,885	維新	新	０回

注：欄外の（当）は小選挙区選出議員、（比）は比例代表選出議員
氏名欄の（　）内は年齢

自民・立憲・希望・共産・維新の５党が県内最多の候補を立てた。自民党の小林鷹之氏が５万票以上離して再選（３期）した。小林氏の得票率は、48.81％であった。

比例区の得票率は自民32.96％、立憲民主24.79％、希望15.29％、公明11.38％、共産8.89％、維新5.23％、社民1.14％、幸福実現0.32％

③３区（千葉市緑区、市原市）

千葉県第３区の選挙結果

	氏　名	得票数	政党	新旧	当選回数
(当)	松野　博一 (55)	85,461	自民	前	７回
(比)	岡島　一正 (59)	52,018	立憲	元	３回
	櫛渕　万里 (50)	22,962	希望	元	１回

注：欄外の（当）は小選挙区選出議員、（比）は比例代表選出議員
氏名欄の（　）内は年齢

自民・立憲・希望の３党が候補を擁立。前文科相の自民党松野博一氏が７期目の当選、得票率は53.27％。次点の立憲民主党岡島一正氏が比例代表で復活当選（３期）した。岡島氏の得票率は32.42％だった。

比例区の得票率は自民34.53％、立憲民主23.29％、希望16.00％、公明14.58％、共産6.83％、維新3.33％、社民1.11％、幸福実現0.33％

④４区（船橋市４区域）

千葉県第４区の選挙結果

	氏　名	得票数	政党	新旧	当選回数
(当)	野田　佳彦 (60)	131,024	無所	前	８回
(比)	木村　哲也 (48)	61,804	自民	新	１回
	深津　俊郎 (69)	14,955	共産	新	０回
	佐藤　　浩 (52)	12,104	維新	新	０回

注：欄外の（当）は小選挙区選出議員、（比）は比例代表選出議員
氏名欄の（　）内は年齢

無所属で立候補した前首相野田佳彦氏に自民、共産、維新が挑戦。野田氏が県内最高の13万票余を獲得して圧勝（８期）した。野田氏の得票率は59.59％。自民の新人木村哲也氏が比例代表で復活当選（初）した。木村氏の得票率は28.11％であった。

比例区の得票率は自民33.15％、立憲民主26.46％、希望14.78％、公明10.01％、共産8.95％、維新4.87％、社民1.45％、幸福実現0.33％

⑤５区（市川市５地区、浦安市）

千葉県第５区の選挙結果

	氏　名	得票数	政党	新旧	当選回数
(当)	薗浦健太郎 (45)	107,299	自民	前	４回
	山田　厚史 (69)	62,894	立憲	新	０回
	岡野　純子 (39)	40,115	希望	新	０回

注：欄外の（当）は小選挙区選出議員、（比）は比例代表選出議員
氏名欄の（　）内は年齢

自民・立憲・希望の３党が候補を擁立。自民党の前職薗浦健太郎氏が立憲、希望の新人を退ける。薗浦氏（４期目）の得票率は51.02％であった。

比例区の得票率は自民36.53％、立憲民主24.50％、希望16.46％、公明9.00％、共産7.36％、維新4.76％、社民1.11％、幸福実現0.28％

⑥６区（松戸市６区域、市川市６区域）

自民・立憲・希望・維新の４党が候補を擁立。自民党前職の渡辺博道氏が当選（７期）。渡辺氏の得票率は43.50％であった。立憲民主党の元職生方幸夫氏が比例代表で復活当選（７期）した。生方氏の得票率は37.21％。

比例区の得票率は自民31.66％、立憲民主24.79％、希望15.54％、公明12.96％、共産8.90％、維新4.42％、社民1.37％、幸福実現0.35％

千葉県第６区の選挙結果

	氏　名	得票数	政党	新旧	当選回数
(当)	渡辺　博道 (67)	76,323	自民	前	７回
(比)	生方　幸夫 (69)	65,281	立憲	元	６回
	遠藤　宣彦 (54)	23,701	希望	元	１回
	星　健太郎 (37)	10,145	維新	新	０回

注：欄外の（当）は小選挙区選出議員、（比）は比例代表選出議員
氏名欄の（　）内は年齢

⑦７区（野田市、流山市、松戸市７区域）

千葉県第７区の選挙結果

	氏　名	得票数	政党	新旧	当選回数
(当)	斎藤　　健 (58)	115,731	自民	前	４回
	石塚　貞通 (50)	51,776	立憲	新	０回
	波多野里奈 (44)	29,706	希望	新	０回
	渡部　隆夫 (74)	15,025	共産	新	０回

注：欄外の（当）は小選挙区選出議員、（比）は比例代表選出議員
氏名欄の（　）内は年齢

自民・立憲・希望・共産の４党が候補を擁立、農水大臣の自民党斎藤健氏が当選（４期）した。斎藤氏の得票率は54.53％であった。

比例区の得票率は自民32.87％、立憲民主25.00％、希望16.72％、公明11.67％、共産8.44％、維新3.46％、社民1.49％、幸福実現0.33％

⑧８区（柏市８区域、我孫子市）

千葉県第８区の選挙結果

	氏　名	得票数	政党	新旧	当選回数
(当)	桜田　義孝 (67)	100,115	自民	前	７回
	太田　和美 (38)	71,468	希望	前	３回
	小野里定良 (70)	33,752	共産	新	０回

注：欄外の（当）は小選挙区選出議員、（比）は比例代表選出議員
氏名欄の（　）内は年齢

自民・希望・共産の３党が候補者を擁立。自民党前職の桜田義孝氏が当選（７期）。桜田氏の得票率は48.76％であった。

比例区の得票率は自民32.97％、立憲民主24.96％、希望17.71％、公明10.34％、共産8.39％、維新3.86％、社民1.38％、幸福実現0.39％

⑨９区（千葉市若葉区、佐倉市、四街道市、八街市）

千葉県第９区の選挙結果

	氏　名	得票数	政党	新旧	当選回数
(当)	秋本　真利 (42)	92,180	自民	前	３回
(比)	奥野総一郎 (53)	76,332	希望	前	４回
	鴨志田安代 (62)	28,488	共産	新	０回

注：欄外の（当）は小選挙区選出議員、（比）は比例代表選出議員
氏名欄の（　）内は年齢

自民・希望・共産の３党が候補者を擁立。自民党前職の秋本真利氏が当選（３期）した。秋本氏の得票率は46.79％。希望の党の奥野総一郎氏は比例代表で復活当選（４期）した。奥野氏の得票率は38.75％。

比例区の得票率は自民32.96％、立憲民主22.17％、希望19.92％、公明12.38％、共産7.61％、維新3.36％、社民1.20％、幸福実現0.39％

⑩10区（銚子市、成田市、旭市、匝瑳市、香取市、神崎町、多古町、東庄町、横芝光町10区域）

千葉県第10区の選挙結果

	氏　名	得票数	政党	新旧	当選回数
(当)	林　　幹雄 (70)	88,398	自民	前	９回
	谷田川　元 (54)	65,256	希望	元	１回
	笠原　正実 (63)	12,758	共産	新	０回

注：欄外の（当）は小選挙区選出議員、（比）は比例代表選出議員
氏名欄の（　）内は年齢

自民・希望・共産の３党が候補者を擁立。元経産大臣で自民党前職の林幹雄氏が当選（９期）した。林氏の得票率は53.12％であった。

比例区の得票率は自民38.70％、立憲民主15.44％、希望23.26％、公明12.22％、共産5.66％、維新2.88％、社民1.35％、幸福実現0.50％

⑪11区（茂原市、東金市、勝浦市、山武市、いすみ市、大網白里市、九十九里町、芝山町、横芝光町11区域、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町、大多喜町、御宿町）

千葉県第11区の選挙結果

	氏　名	得票数	政党	新旧	当選回数
(当)	森　　英介 (69)	103,919	自民	前	10回
	多ケ谷　亮 (48)	45,345	希望	新	０回
	椎名　史明 (60)	23,968	共産	新	０回

注：欄外の（当）は小選挙区選出議員、（比）は比例代表選出議員
氏名欄の（　）内は年齢

自民・希望・共産の３党が候補者を擁立。元法務大臣で自民党前職の森英介氏が当選（10期）した。森氏の得票率は59.59％。

比例区の得票率は自民37.39％、立憲民主16.49％、希望18.57％、公明15.32％、共産7.33％、維新2.92％、社民1.38％、幸福実現0.60％

⑫12区（館山市、木更津市、鴨川市、君津市、富津市、袖ケ浦市、南房総市、鋸南町）

千葉県第12区の選挙結果

	氏　名	得票数	政党	新旧	当選回数
(当)	浜田　靖一 (62)	120,075	自民	前	９回
	樋高　　剛 (51)	36,571	希望	元	３回
	大西　　航 (36)	22,182	共産	新	０回
	皆川真一郎 (63)	10,713	社民	新	０回

注：欄外の（当）は小選挙区選出議員、（比）は比例代表選出議員
氏名欄の（　）内は年齢

自民・希望・共産・社民の４党が候補者を擁立し、元防衛大臣で自民党前職の浜田靖一氏が当選（９期）した。浜田氏の得票率は63.35％と県内最高であった。

比例区の得票率は自民37.32％、立憲民主16.73％、希望18.09％、公明15.76％、共産6.27％、維新3.04％、社民2.00％、幸福実現0.40％

⑬13区（鎌ケ谷市、印西市、白井市、富里市、柏市13区域、船橋市13区域、酒々井町、栄町）

自民・立憲・希望・共産の４党が候補者を擁立し、自民党前職の白須賀貴樹氏が当選（３期）した。白須賀氏の得票率は45.84％。立憲民主党の

宮川伸氏が比例代表で復活当選（初）した。宮川氏の得票率は28.28％。共産党前職の斎藤和子氏は復活当選に至らず、議席を失った。

比例区の得票率は自民32.15％、立憲民主24.93％、希望16.05％、公明13.24％、共産8.74％、維新3.40％、社民1.11％、幸福実現0.37％

千葉県第13区の選挙結果

	氏　名	得票数	政党	新旧	当選回数
(当)	白須賀貴樹 (42)	93,081	自民	前	3回
(比)	宮川　　伸 (47)	57,431	立憲	新	1回
	水野　智彦 (61)	31,887	希望	元	1回
	斉藤　和子 (43)	20,679	共産	前	1回

注：欄外の（当）は小選挙区選出議員、（比）は比例代表選出議員
氏名欄の（　）内は年齢

5．新聞各社の見解（いずれも10月23日社説）は次のとおりである。

毎日は、「首相がゲームに勝ったのは明らかだ。野党の失敗で相対的に自民党が浮上したのは確かだが、事実として首相の勝利を認定しなければ選挙の意味がぼやけてしまう。首相にはそれだけのエネルギーが補充された」

朝日は、「民進党代表だった前原誠司氏と小池氏の『政略優先の姿勢』が有権者に不信感を抱かせた結果、むしろ野党が負けたのが実態だろう」

日本経済は、「この選挙を一言で総括すれば『野党の自滅』である。（与党が）安倍政権への全面承認と受け止めているとしたら、大いなる勘違いである」

産経は、「（国難を乗り越えるという）首相の呼びかけに、国民は強い支持を与えた」

読売は、「安倍政権の全てを支持するほどではない。だが、政治の安定を維持し、（中略）きちんと結果を出してほしい。それが、今回示された民意だろう」

一方、民進党の分裂によって、多弱化の進んだ野党に対して各紙は、再結集への否定的な見方で共通している。

読売は、「衆院選直後の再結集は、集票目当てで一時的に看板を架け替えたに等しい。有権者を愚弄するものだ」（10月26日社説）

日本経済も「もはや選挙互助会の発想で離合集散を繰り返す行動とは決別すべきである」（11月１日社説）

毎日は、「まずは会派単位での連携が望ましい」（10月25日社説）「選挙が終われば元のさやに収まるというのでは有権者をないがしろにする」（11月１日社説）

6．終わりに

この選挙、野党の分裂と混乱で漁夫の利を得たのは自民党であった。もともと、安倍首相の都合優先が目に付く選挙であったことから、首相自身も多少の議席減は覚悟していたと言われた。また、小池都知事が希望の党を立ち上げた当初は、もしやと思わせた。しかし、自民党は公示前勢力と同じ284議席を獲得し、55議席の立憲民主党、50議席の希望の党に大きく水をあけた。

安倍首相は投開票翌日の記者会見で、「安定した政治基盤の下でこれからも政治を前に進めようと、国民の皆様から力強く背中を押していただいた。国難とも呼ぶべき事態に対し、総理大臣としてこの国のかじ取り担う重責を全うしてまいります」と強い自負を示した。

われわれは今回の分析をとおして、現在の選挙制度が民意を反映しにくいものであることを知った。しかしながら、元の中選挙区制度に戻せるものではない。政権与党に緊張感を持たせ、幅広い支持が得られる懐の大きな政治家と政党の誕生が待たれる。

井原　慶一　プロフィール

元市川市職員、自治労千葉県本部副委員長歴任後、佐倉市議会議員１期、現在千葉県地方自治研究センター研究員